

令和2年度 まちづくり懇談会 会場アンケート 累計

会場別参加者数の推移

地区	金沢	湖東	北山	中大塩	ちの	全地区	米沢	宮川	豊平	玉川	泉野	合計
H30(人)	70	85	98	65	104	19	73	94	67	124	73	872
R1(人)	104	85	103	75	105	22	91	113	67	121	82	968
R2(人)	57	44	48	34	41	24	42	51	35	48	40	464
R2アンケート回収数(枚)	35	28	30	19	20	12	25	32	19	31	24	275
開催日	10/8	10/13	10/20	10/22	10/27	10/31	11/5	11/9	11/12	11/17	11/26	全11回

※複数回答した人がいるため、合計が回答者数の合計と一致していない項目があります。

1 性別

	累計	
男	245	89.1%
女	29	10.5%
無回答	1	0.4%

275

2 年代

	累計	
20歳代	6	2.2%
30歳代	17	6.2%
40歳代	30	10.9%
50歳代	69	25.1%
60歳代	110	40.0%
70歳代	40	14.5%
80歳代	2	0.7%
その他	1	0.4%
無回答	0	0.0%

275

3 地区

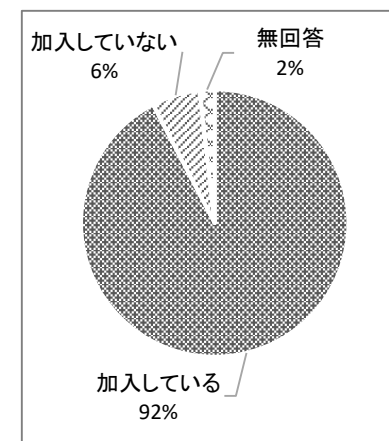
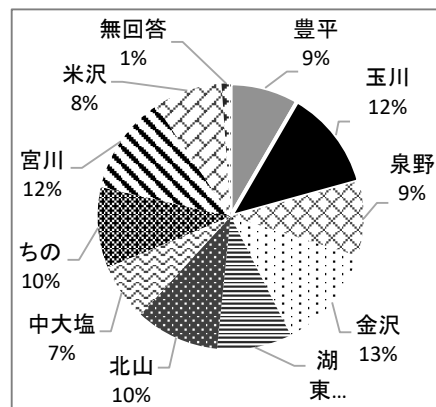
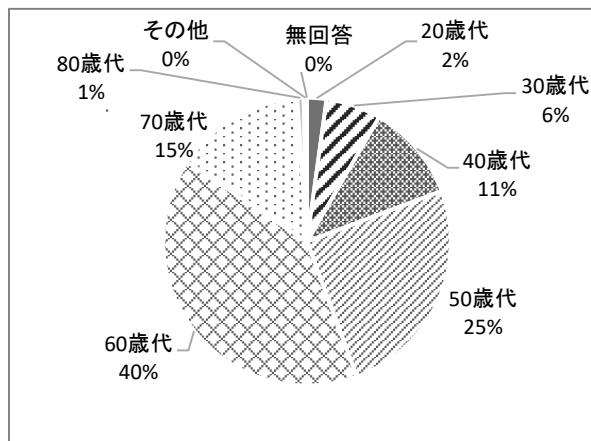
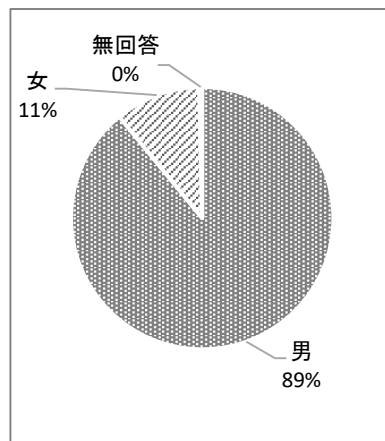
	累計	
豊平	23	8.4%
玉川	34	12.4%
泉野	25	9.1%
金沢	35	12.7%
湖東	25	9.1%
北山	28	10.2%
中大塩	19	6.9%
ちの	27	9.8%
宮川	33	12.0%
米沢	23	8.4%
無回答	3	1.1%

275

4 区・自治会への加入状況

	累計	
加入している	254	92.4%
加入していない	16	5.8%
無回答	5	1.8%

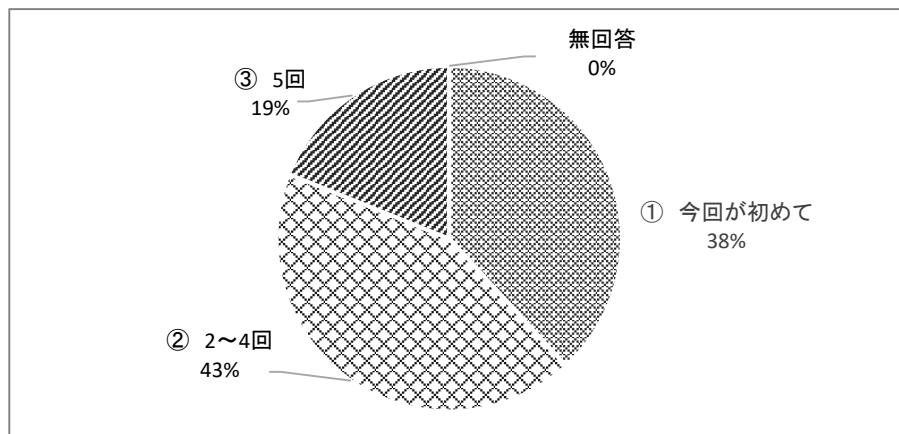
275



5 過去5年間で、まちづくり懇談会に何回参加したか

	累計	
① 今回が初めて	105	38.2%
② 2～4回	118	42.9%
③ 5回	52	18.9%
無回答	0	0.0%

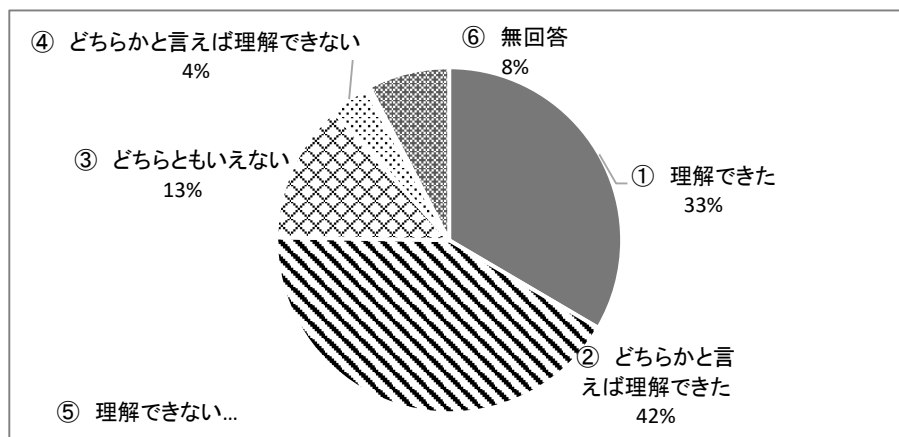
275



6 市の財政状況と重要事業の説明をしましたが、理解できましたか。

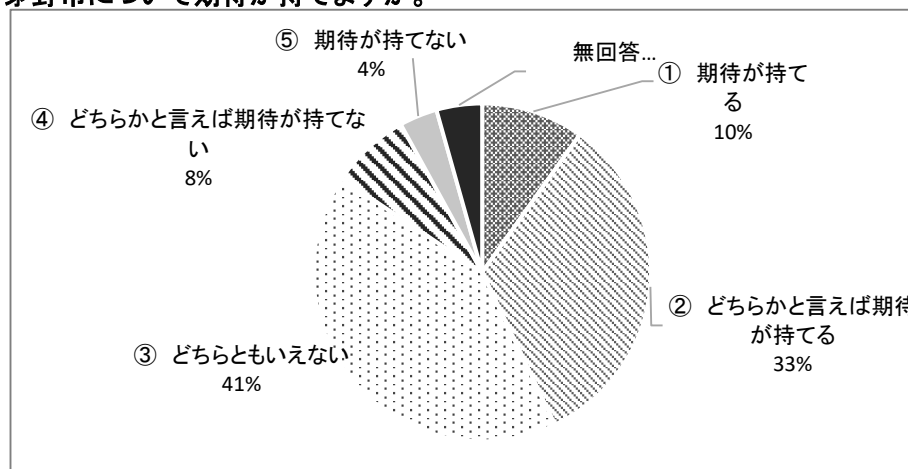
	累計	
① 理解できた	92	33.5%
② どちらかと言えば理解できた	115	41.8%
③ どちらともいえない	36	13.1%
④ どちらかと言えば理解できない	10	3.6%
⑤ 理解できない	1	0.4%
⑥ 無回答	21	7.6%

275



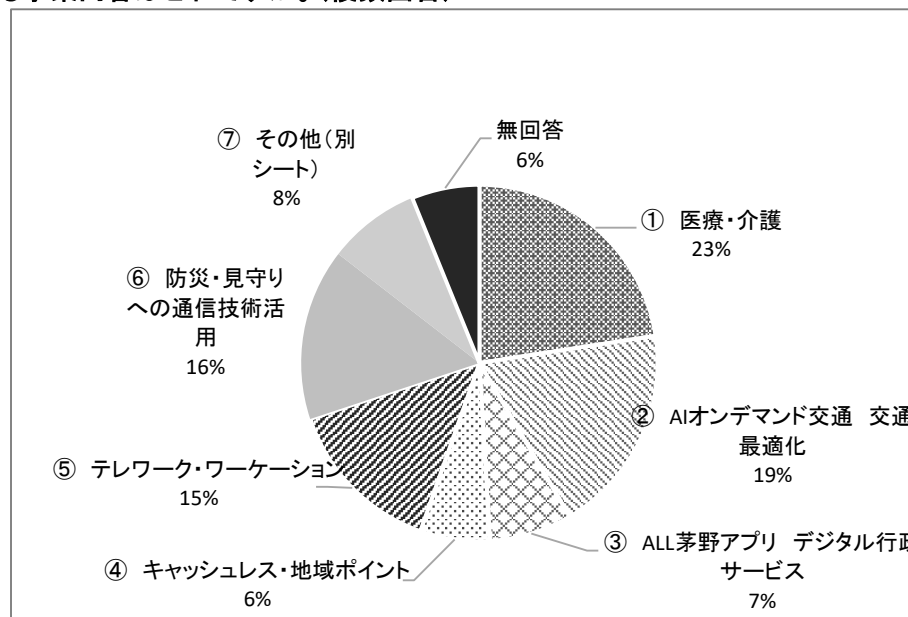
7 若者に「選ばれるまち」の実現に向けて説明しましたが、10年後の茅野市について期待が持てますか。

	累計	
① 期待が持てる	27	9.8%
② どちらかと言えば期待が持てる	91	33.1%
③ どちらともいえない	114	41.5%
④ どちらかと言えば期待が持てない	21	7.6%
⑤ 期待が持てない	10	3.6%
無回答	12	4.4%
	275	100.0%



8 若者に「選ばれるまち」の実現に向けて説明をしましたが、期待する事業内容はどれですか。(複数回答)

	累計	
① 医療・介護	132	22.6%
② AIオンデマンド交通 交通最適化	111	19.0%
③ ALL茅野アプリ デジタル行政サービス	44	7.5%
④ キャッシュレス・地域ポイント	37	6.3%
⑤ テレワーク・ワーケーション	85	14.5%
⑥ 防災・見守りへの通信技術活用	91	15.6%
⑦ その他(別シート)	49	8.4%
無回答	36	6.2%
	585	100.0%



【設問8】若者に「選ばれるまち」の実現に向けて説明をしましたが、期待する事業内容はどれですか。

⑦その他（具体的に記入ください）

区分	記載内容
若者に選ばれるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・何をしようとしているのか不明。これらをやすることで若者がなぜ茅野市を選ぶのか、なぜ行政はそう思ったのかが不明。 ・若者が茅野市に住み続けられるためには、働く場所が一番大事なのでは。企業が元気でありつづけることの助成等、一緒に考えてほしい。 ・理科大を利用した街づくりを。 ・他の市町村から通学している学生等の意見の集約をしてほしい。若者の意見は、今の世の中ぜひ参考にされたい。 ・若者が住んで楽しいと思えるまち。 ・若者が働ける企業誘致も必要。 ・これらの施策で若者が増えるとは思わない。 ・選ばれる「特別なもの」が必要。 ・「医療・介護」「AIオンデマンド交通 交通最適化」の構想は、理解できた。今後具体的に確実に推進して欲しい。 ・具体的な内容を周知して、選択させてはいかがでしょうか。 ・10年後に本当に実現できるプランなのか、具体的なイメージが出来なかった。確実にできることも盛り込んで、3年・5年・10年のアウトプットイメージを出来るようにしてほしい。 ・挙げられている事業も必要だとは思いますが、導入にはコストがかかる。多額の税金を使うのであれば、子育て世代への投資を優先したほうが人は集まるのでは。 ・いずれの施策案も多くの若者に関係なく、ましてやスマホを持たない者にとっては関心が無い。色々やるのではなく、茅野市として何か一つ決めてやってほしい。例えば、全国から来てもらえるような温泉地にする、八ヶ岳にポイントを絞る等。 ・デジタル化に向かう10年後を見据えてとのことだが、その都度高齢者に分かるように説明が必要。 ・全ての事業にチャレンジしてほしいと思うが、これらの横のつながりを大切に。 ・参加(利用)するのは市民。市民みんなで参加したい。
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て(保育費・教育費が安い、病院が近くにある)、教育政策の充実(本屋・芸術文化が盛ん) ・安心して子育てができるまちに。 ・子どもの教育の充実を図る事業を検討してほしい。若い人が定住するには、その人の子どもも享受できる良さが必要。例えば、授業科目だけでなく、美術・IT・自然科学など、その子供が興味をもった分野を伸ばせる教育事業を展開してほしい。 ・「若者に選ばれる」というテーマなのに、子ども・教育に関することが一つもないのはなぜでしょうか。若者に向けていますか？誰に向けているのでしょうか。20歳～40歳が魅力を感じる選ぶ要素になりますか？高齢者向けに見えます。もちろん、教育・子育ても入っているでしょうが、言葉にして出すことで若者や子育て中の方に注目される茅野市になるのでは？ ・中学生の職場体験を複数回行ってはどうか。北陸地方の県では、若者の定着が高いところがある。更なる工夫が必要なのでは。将来の若者在留のためにも選択肢を増やすことが大切。 ・理科大があるので、小中学生に大学の体験入学をしてもらいたい。学校の授業とは違う学びを体験してもらえば良い。 ・通学路の再点検。夜間夕方等に生徒の気持ちになって再点検を。
福祉・医療	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護の充実を図り、中高年も移住が増えることができる地域になってほしい。 ・20歳せめて高校卒業までの医療費等の支援。 ・高齢者の介護問題。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・駅から山への交通路の整備。 ・高齢者の移動手段。 ・オンデマンド交通は、高齢者には便利。使いやすいシステムにしてほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・通学バスの運行を早めに行ってほしい。泉野を対象にしてほしい。これから移住する方が通学面で不安になると思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアポイントはどうなったのか。 ・地域ポイントは、全市一つのカードになったら便利。 ・地域ポイントの拡充。 ・若者たちとのワークショップ。 ・防災、通信速度。 ・大都市圏から移住がしやすいようにしていくと良いでしょう。 ・コロナ禍による地方への移住をすすめる。 ・空き家・空き別荘の具体的な利用案を示せば、期待できるものがあると思う。 ・小スマートタウンを基地とした観光。街中と山麓に各種宿があり、若者や年配者が八ヶ岳の景観・温泉を楽しむ方式を構築していく。業者に任せるだけでなく、市で音頭取りをする。 ・駅前に店舗が参入できる環境づくり。 ・高齢者の生きがい・仲間づくりへの現役世代の関与。 ・安定した生活ができる収入を稼げるまち。 ・市民が市・地元へ愛着心や誇りを持てる地域づくりの風土を作ることが、まず大切。 ・市民がPRできるようなまちづくりを。 ・茅野市の魅力を市民に対してアピールすることも必要。 ・マスコミ等を活用し、日本で一番住みやすい街に選ばれることを目指す。 ・税公共料金は、クレジットカードで支払いが出来るようにしてほしい。 ・市ホームページの見栄えを良くする。

【設問9】 その他（自由記載）

区分	記載内容
まちづくり懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそもこういう会議に若者が来るのか、根本的なところを考えてほしい。 ・「なんでも良いからどうぞ」という質問は、何のための会なのか分からなくなる。参加している時間も、何のためなのか。何のために職員はこの会に参加し、残業をしているのか。 ・初めて聞く言葉・事業等が多くて理解が難しかった。年寄りにも分かる易しい言葉で広報誌等で周知してほしい。 ・まち懇の終了時間はちゃんと守っていただきたい。 ・まち懇で市の農業についての討議が数年ない。是非農業関係の役職者の出席をお願いしたい。 ・コロナ対策についての話が無いのは時代に合っていなかったと思う。 ・全体的にコンパクトで良かった。テーマもひとつですっきりしている。市長の語りもわかりやすく良かった。 ・広報ちの等にまち懇の内容(市長の考え)を事前に周知し、中身を濃くしてはどうか。 ・1年に1度の開催は、良い。 ・もう少し説明時間の短縮を。せっかく若い人がいるので、若い世代の話を聞いてあげると良かったと思う。 ・地域住民と行政との懇談会の機会をもう少し増やしてほしい。 ・紙でなく、直接言葉で説明が聞けて良かった。 ・今回のまち懇では、テーマである「若者に選ばれるまちの実現に向けて」という部分では深まりのある議論が出来なかったのが残念。若者も大勢いらしていたのに。会の持ち方を検討して、貴重な時間を有効に、有意義なものにしていただけると良いと思う。
人口減少対策	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・少子化の防止をすれば、子育て世代の医療・保育の充実を図ることで住みやすい地域になる。 ・茅野市は本当に良い所だと思うので、人口が増えていけるような街になっていけばよい。暮らしやすい街に。 ・少子高齢化対策が必要。住みやすい所には、自然と人が集まる。 ・人口が増加することは考えにくい。施策を進めるとともに減少を見据えた施策も大胆に進めてほしい。 ・人口減少・高齢化は全国的な課題と捉えてほしい。その中で、都会の方が茅野市を選んでもらえる魅力ある里づくりは、ある意味素人集団では難しい。お金をかけてコンサルできる信用ある人・業者に依頼して、イメージをクリエイティブしていく必要があるのでは。 ・人口減少に伴う都市のコンパクト化
キャッシュレス、デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のキャッシュレス化に手厚いフォローをして欲しい。なぜ高齢者のキャッシュレス率が低いのか考えて。 ・自然を活用した場所を活かし、デジタル化と共存する場があれば面白い。 ・ネット環境はWi-Fiも含め、公共インフラとしてもっと大胆に進めるべき。
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・R152の理科大バス停に屋根を付けてあげてほしい。外灯も少ない。 ・買い物や交通がもっと便利になると、若者もこの茅野市にとどまってもらえると思う。 ・高校生の通学時間帯に合わせたバス運行は、需要が大きいと思う。 ・東京に住んでいる人が茅野に移住するとなると、交通の課題は大きい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人だけでなく、外国人も呼び込める市になると良い。 ・アフターコロナの未来像を枠組みにしながら取り組んでほしい。 ・パートナーシップを大切にしながら、協働で創造してほしい。 ・コロナ禍で会議が減ったことで本当に必要なものが見えてきたはず。

区分	記載内容
若者に選ばれるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・提案だけで絶対に終わらない様に、毎年市民を巻き込んだことも提案・事業化するようお願いしたい。 ・高齢化の時代、年寄りが疎外感(必要とされない)を持つことの無いような市政運営をしてほしい。当然、そうなれば若者に選ばれるまちとなる。 ・茅野市にずっと住み続けたい。安心の街をつくってほしい。 ・理科大から駅への楽しい街並みが無い。 ・他市町村と比較しても茅野市が選ばれる強力なポイントが乏しい。 ・駅周辺に人がいない。賑わいが無い。 ・新たなポイントとなる事業を進めていくときに、是非若者の意見を取り入れてほしい。 ・茅野市で育った子どもたちが「茅野市で働き、子育てをしたい」と思えるようなまちづくりを。 ・茅野市で育った子どもが帰って来られるまちづくりを。職や住居、地域コミュニティの充実を。 ・若者に意見を聞いてほしい。他の都道府県に進学した若者たちが通学用バスが無い。茅野市に帰りたと思うか？ ・若者が住みやすい街にしてほしい。 ・将来どのようなまちになるか、具体的な絵に描いて見せなければ市民は夢を見る事が出来ない。夢があれば現在の不満を我慢できる ・今の住民が本当に住みやすいと思えば、市外に出てしまった子どもを呼び寄せる。そんな対策が現実的だと思う。できれば各区会で話をして欲しい。 ・全方向まんべんなくでなく、優先順を絞ると良い。若者の生の意見を聞かせてください。 ・必要とされる人たちが多く流入される街づくりを今以上に作っていく必要がある。 ・暮らしやすい未来のための様々な事業も、土台には安心・安全な街が無ければならない。 ・「若者」と捉えている20歳から40歳を「働き盛り」と言っていたが、「働き盛り」をこの世代に限定してよいのか。 ・市長の話にあった新しいインフラ整備の話は、「この方法だと住民の足はここまで確保できる」「ここまで目指す」等、もう少し具体的な話をして欲しかった。 ・UberのようなAIを扱う技術を用いて、若者にも利用してもらおうという点では考えが不足していると思う。 ・「若者に選ばれるまち」は素晴らしいテーマ。積極的に進めてほしい。市としては良い施策だとは思いますが、泉野地区としては若者の流出が止まらない。市中心部への一極集中的な施策が招いた結果。公共施設も泉野地区は残す、テコ入れをするなどして、地区の活性化に活かしてもらいたい。 ・「若者に選ばれるまち」とあるが、若い人たちが何を望んでいるのか、それに対して6つの提案事業がそのニーズに応えられるのかがプレゼンから感じられない。 ・市長と話す場を定期的開催してほしい。「選ばれるまち」の各事業は、予算との関連があるので実行に制限があるのでは。 ・現在茅野に住んでいる若者は、なぜ茅野に定住しようと思ったのか。これが大きなヒントになる。 ・移住してきた方に意見を聞くのも大切。若い人で茅野へUターンしてきた方にも意見を聞いてほしい。 ・都市部から移住してもらおうというが、その人たちは地元と協力できるのか。都市部の当り前を盛り込まれてもダメ。 ・移住するにあたりやはり仕事と居住地(土地)選びが大変だった。若い方々はネット検索をすることも多いので仕事や空き家・土地等の情報をもっと開示してほしい。

区分	記載内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業までは、茅野市に住みながら県内(または山梨県)の高校に通っている生徒が大半である。どのくらいの子どもが高校卒業後も茅野市に住みながら就職や進学をしているのか。高校卒業後、一旦は茅野市を離れてもまた帰ってきているのか。それぞれへの対応がポイントだと思う。まずは「働ける場」(働きたいと思う場。今の若者はどんな働き方を望んでいるの)かリサーチすることも大切なのでは。)があることが重要。次に、安心して子育て出来る環境の充実を。 ・デジタル社会のなかで若者を捉えようとする市のすばらしさを感じた。 ・スーパーシティ(一般道ではなく、高速道路で目的達成)となれるようにご尽力いただきたい。 ・若者の眼からみた茅野市はどんなところ?これを知る事で新しく動いていく方向がみえてくる。 ・移住者には、災害の際に安全な場所への居住地を推進する。 ・移住者が家庭菜園等を自分の土地で出来るように考え欲しい。 ・具体的な目標と指数を示してほしい。 ・実際に若者がどれくらい定住することを目標にしているのか。 ・政策は、PDCAサイクルに基づきスピード感をもって実行してもらいたい。
地域、地区、区・自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪東京理科大との連携を密にし、地元就職を勧めてほしい。 ・住み易さの中で茅野は環境面(景観・風土等)、利便性(東京に近い)は好条件。地域の力(住民の気持ち)がまとまっていないことが多い。 ・PTAや地区の役など、仕事以外の活動の軽減。 ・市が企業のワークライフバランスをバックアップすることで、地域の役員をまわせるのでは。 ・地域に残った若者に負担が増えないように、なんとか負担を減らせるようにしてほしい。 ・若者が減り、様々な役職を兼務せざるを得ない。組織・活動のスリム化が必要。 ・地区役員の負担が、住みよいまち・暮らしたいまちのネックになっている。行事の見直し等の必要があるのでは。 ・若い人は、地区や学校の役員はかなりの負担に感じている。拘束される回数・時間が多。具体的にやる事を示し、短時間で済ませる、zoomを使う等の手段で対応できれば、抵抗感が少なくなるのでは。 ・大きなことよりも地域の課題は山積している。役員を決める事、汐の管理、財産区との関係。この時期になると眠れなくなる。この課題がある限り、息子に帰ってこい、とは言えない。 ・行政における住民負担の軽減は必要。コロナ禍で省ける部分もあったかと思う。再考の良い機会では。 ・家を建てたママ友が、区費が高すぎるという理由で区に入れずにいたが、区の行事にも参加させてもらえず、結局引っ越してしまった。 ・未入区世帯が増えている。いくら若者が茅野に来て、近隣の人とのコミュニケーションが無ければ今後の将来が心配。 ・コロナ対応について、区・自治体への支援をきめ細かく力強くお願いしたい。地域活動の委縮をなんとかしてほしい。 ・市民が増えてきた時、現在の地区としてのコミュニティが継続していけるのか。市による入区等の積極的な取組を期待する。
消防団	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が消防を理由にして地元に戻ってこないというケースがあるため、消防団の再編成を期待する。 ・消防団員が足りない。人口が増えるような施策を考えなければならない。策定委員会で話合っているが、各地区で状況がちがうので、全体で決めるのは大変。長い目で消防団を見てほしい。 ・消防団に加入している世帯には、市民税などが減免されると入団員が増えるのでは。

区分	記載内容
福祉・医療	<ul style="list-style-type: none"> ・医療に関しては、システムばかり充実させるより、個人の健康をいかに保っていけるかを考えた方が良いのでは。 ・一人暮らしの高齢者が、安くて安心して住めるホーム的な建物の設置。 ・諏訪中央病院を全世界の方が来院したい病院にする。 ・超高齢化社会が目前にきています。高齢者の医療体制拡充、高齢になっても安心して生活できるまちづくりの推進を。 ・母子手帳や福祉医療受給者証など、こどもが多いと持ち歩くのが大変。デジタル化(またはカード化)を進めるのであれば、こちらをあわせて検討してほしい。 ・若者のみならず、住みやすいまちづくりは、子どもの医療費負担軽減から。 ・若者も大切だが、年寄りにもやさしい福祉の街に。
農業・山林	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による農地の放棄が以前より課題となっている。担い手も無く、農家は困惑している。 ・農業振興、特に花卉産業に力を入れていただきたい。リンドウの生産は減少の一途。地域産業として確立を。市役所にリンドウを生けてほしい。 ・20年後の泉野の農業をどうするか。
観光・経済	<ul style="list-style-type: none"> ・観光事業に力を入れてください。DMOの活用。 ・コロナ禍で観光事業者は苦しい。観光事業を市でバックアップする事業を願いたい。 ・大学生が蓼科に行ったことがないのは、魅力が無いことが原因なのでは。隣接している旅館・ホテルの協働意識が無い。 ・様々な業種で働ける環境づくりを。「ユナイテッド・ステイツ・オブ・茅野」に。
基盤整備・河川整備・交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・水道課がすすめている蓼科区内トヨタゲストハウス横の水道タンク工事を、来年の7月・8月も工事をするとのこと。できれば昔から蓼科では夏季の工事は自粛してきているので、それにならってもらいたい。 ・子どもたち(小中学生)の通学路について、米沢小学校の通学路は、道幅も狭く、とても危険。何か良い方法を考えて欲しい。「安心の家」にもっと力を入れてほしい。北部中学校の通学路である、塩沢区から山口沢の通学路は、茅野市で一番危ない通学路。何年もお願いしているが、改善無し。安心して通れる通学路にして欲しい。 ・福沢工業団地にディスコが出来ているが、今後交通渋滞が見込まれる。その解決策は。 ・横河川橋架け替えに伴う県道の信号機設置を強く望む。 ・道路整備をすすめてほしい。
空き家対策	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の意思をしっかりと示し、空き家対策、役員不足等について地域の力を結集することが必要。 ・移住者には、災害の際に安全な場所への居住地を推進する。 ・移住者が家庭菜園等を自分の土地で出来るように考え欲しい。 ・古民家だけではなく、空き家の利用の推進に公的補助をしてほしい。
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・施設老朽化のため、サンコーポラス旭ヶ丘のリフォームを考えてほしい。 ・駅周辺に人を集めるには、大型店舗や専門店が必要。 ・若者が外で遊べる場を求めているが、その点に関して茅野市のイベントや場所などのアピールが少ない。 ・若い人の遊べる場所が無い。レクリエーション施設、サークルの援助をしてほしい。 ・諏訪地区に来た当初は、自分の田舎に比べて都会だと感じていたが、年々商店が無くなり若者の遊ぶところが減っている。 ・茅野市を含め、諏訪地域はスポーツ施設が圧倒的に乏しい。特にサッカー場は皆無。Todo補助金を利用して、人工芝のサッカー場を開設してもらいたい。 ・陸上競技場で引き続き大会を開催できるようにしてほしい。

区分	記載内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・永明小中学校の立替えにあたり、校庭で活動している部活・団体の活動場所の確保をしてほしい。
教育・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・移住する人を増加させることは大切だが、子どもを産むことが基本の政策を。 ・今の子どもたちの環境を考え、自然を大切にしていくなを育むまちにしてほしい。 ・子どもを育てやすい環境づくりを今以上に進める必要がある。 ・若者に選ばれる街も大事だが、子どもがたくさん産める街づくりもしてもらいたい。 ・若者が好んで住めるよう、教育に重点をおくことも必要なのでは。 ・市長は大事な点として教育・環境を挙げた。「若者」という枠を広げて教育を受けている子どものことを考えると、茅野市の教育は教師の自主性・主体性を発揮しにくい状況にあると思う。流行りに足を移し過ぎているように見える。教育としての「不易」の部分を根底に置いてほしい。地域を愛する心を育てることが、市長の願いに繋がるのではないか。市外に出た若者が仲間に茅野市のよさを伝え、茅野市に足を運んでもらえるようになるのでは。 ・中学校の「総合的な学習」で3年間、縄文・市民科で茅野について学ぶ。教育長の話にあったが、1年生では歴史等を含めてふるさつを知る、2年生では職場体験を通して考え、3年生でふるさつのために出来ることを真剣に考えている。故郷を愛し、地元に戻ってくる子どもを育てたいと思う。 ・オンライン授業を開始しても、親が働きに出ている間、こどもたちだけできちんと出来るのが心配。その間の対策なども考えてほしい。 ・茅野市が特に誇れる事業、例えばITC機器を教材とした教育。 ・教育に関して思い切った独自施策をすることで、注目が集まるのでは？せつかく国の補助金でやるなら、他と違う施策を期待しています。縄文も教育・子育ても言葉に出して行って欲しい。 ・東京などの大学に通う子を呼び戻すためには、奨学金制度を作ってはいかがでしょうか。卒業後に戻ってくれば、返済免除とか。 ・これまで住んだ自治体に比べて、子育てする世代にとっては公園や医療などの面で残念に感じる人が多い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・今後10年間このままの税収入があるとは考えられない。 ・南箕輪の方が茅野市よりすべて良い。温泉入場料は休日500円のところ、平日は300円になる。 ・広報ちのは情報が多い。もっと内容を圧縮して、情報をよく協議してつくってほしい。配布物が多すぎる。 ・市から伝える内容のボリュームが多すぎる。区民からの意見が少なくなってしまう。 ・民間等は人件削減があるが、市役所は職員が多すぎる。市議会議員も半分削減が良い。 ・茅野市の財産である「豊かな自然」これをうまく活用してほしい。 ・縄文の里なので、もっと市民に触れてもらいたい。良い遺跡がいっぱいあるので、行ってもらいたい。 ・行政はPRや情報発信が苦手だと思う。「知りたい、訪れたいまちをつくる」というシティプロモーションやシティセールスはとても重要。制度や仕組みの構築と併せて、茅野市の情報発信の強化に期待します。 ・「結日記」はとても良い取組だと思う。これに続く第2弾を期待する。 ・ボランティア参加に対するポイント付与と、ポイントの活用を長期間できるようにしてほしい。 ・生産年齢世代のボランティアの推進。 ・市長の手紙は、住所・氏名の記入が求められ、担当課へ回送される際には非公表にされるそうだが、公表して回送してほしい。 ・市職員の窓口対応が悪いとの話を聞く。対応の改善をお願いしたい。 ・小型ジェットやヘリコプターが着陸可能な空港をつくり、大企業・国会等を誘致する。